

よいこのあんぜんニュース

2026年(令和8年)3月8日発行 473号付録

少年写真新聞 株式会社 少年写真新聞社
Junior Visual Journal

〒102-8232 東京都千代田区九段南3-9-14 HF九段南ビル URL <https://www.schoolpress.co.jp/>
©少年写真新聞社 2026年 ※著作権法により、本紙の無断複製・転載は禁じられています。

★定期刊行物は終わる期間を予定しない刊行物です。年度が替わりましても購読中止のお申し出がない場合、引き続きニュースをご送付申し上げます。

大人がいなくても 交通ルールを守れるように

全国学校安全教育研究会 / 東京都荒川区立南千住第二幼稚園 園長 立石晃子

木々の芽吹きや花のつぼみが膨らみ始め、春の訪れを感じる月となりました。今年度も皆様と一緒に、大人が子どもの安全を守ること、子どもたち自身が自分の身を大切に守ること、自分だけではなく相手を大切にすることを身につけられるように考える時間をいただき、感謝いたします。いよいよ5歳児は園を巣立ち、小学校へと進学します。小学生になると、子どもだけで行動する機会が多くなってきます。大人がいなくても、交通ルールを守って安全に登下校をしたり子ども同士で行動したりできるよう、改めて歩く時の約束について振り返ってみましょう。

小学生に多い歩行中の事故

内閣府「令和7年交通安全白書」によると、小学生の交通事故による状態別死者・重傷者数(令和2年から6年までの合計)について、学齢別にみると、歩行中は小学1年生及び2年生が特に多いとのこと。また、小学生では、交通事故による歩行中の死者・重傷者数(令和2年から6年までの合計)について、約6割で法令違反等があり、その内訳をみると、飛出しが最も多く、次いで横断違反、信号無視、路上遊戯の順となっているとのこと。子どもが成長するにつれ、ずっと大人が子どもの安全を守るとは難しいので、一人ひとりの子どもが危険を予測し、安全についての知識をもち、ルールを守る必要性を感じて守り、周囲の様子を見て行動する力を身につけることが求められます。

大人が関われるうちに

登降園時、子どもが大人から離れて走って先に進み、横断歩道手前で一時停止や左右の確認をしないまま走り渡る場面に遭遇して、肝を冷やしたことがあります。ぜひ、保護者の方には、こういう場面でしっかりと子どもに指導を行っていただきたいです。

大人が関わることのできる乳幼児期に、しっかりと約束やルールを守ることを教えましょう。大人の適切な行動や声掛けにより、子どもは危険予測や安全行動の必要性を学びます。そして、学んだことは、大人から離れて独立して行動する際の基盤となります。

小学校に入る前に

ぜひ、小学校までの通学路を親子で歩いてみましょう。家から小学校までの道順や曲がり角で目印になるようなものを、子どもが覚えられるようにしましょう。併せて、信号機のない横断歩道、歩道のない道、自転車や車の往来の多さ、人通りの多さ、店舗や駐車場からの車の出入りなど、危険な場所も一緒に確認しましょう。

通学路の確認は、往路だけではなく、小学校から自宅まで戻ってくる復路も確認しましょう。下校時の方が一人で歩くことが多く、行きと帰りでは風景の印象が変わります。歩道や道の端も左右が変わりますし、曲がり角の目印も変わります。子どもが不安にならなくなるまで、一緒に歩いていただきたいです。

あんぜんだより

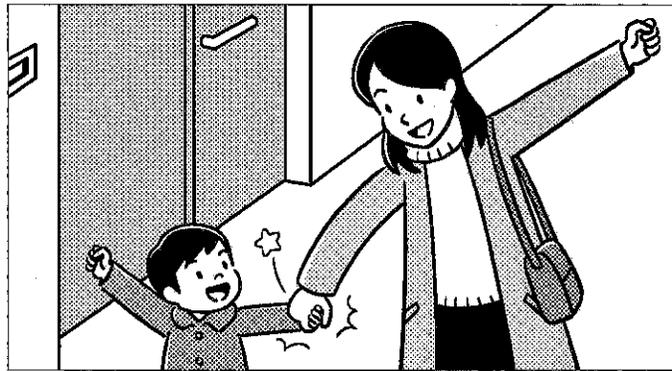
監修 全国学校安全教育研究会/東京都荒川区立南千住第二幼稚園 園長 立石晃子先生

3月になりました。今年度も最後の月です。春休みが迫れば、年少・年中さんは進級、年長さんは新入学と、新生活に期待が高まっていることでしょう。ここでもう一度、道を歩く時の約束を再確認して、新しい日々も安全に送れるようにしましょう。

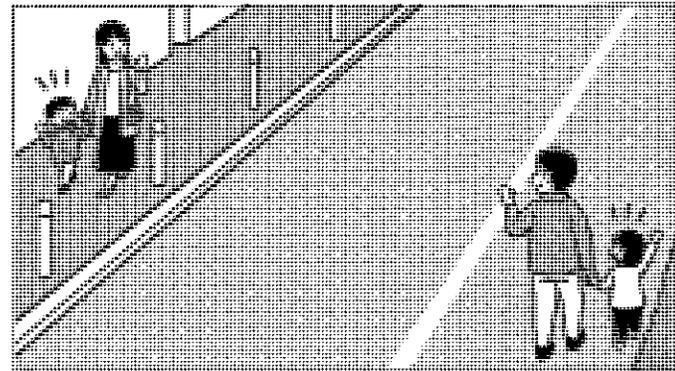


進級・卒園に向けて安全に歩くための約束を再確認しましょう

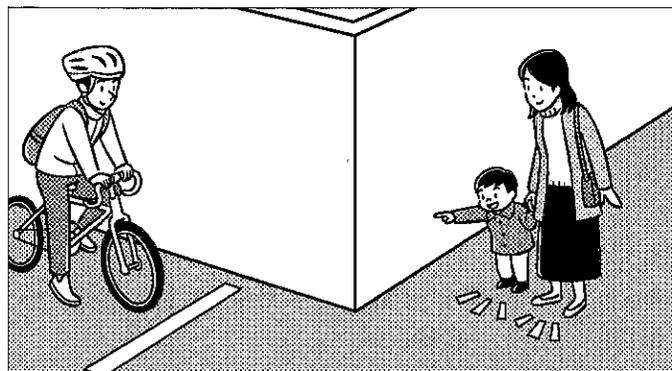
しっかり おぼえて いるかな？ あんぜんにあるく ための やくそく



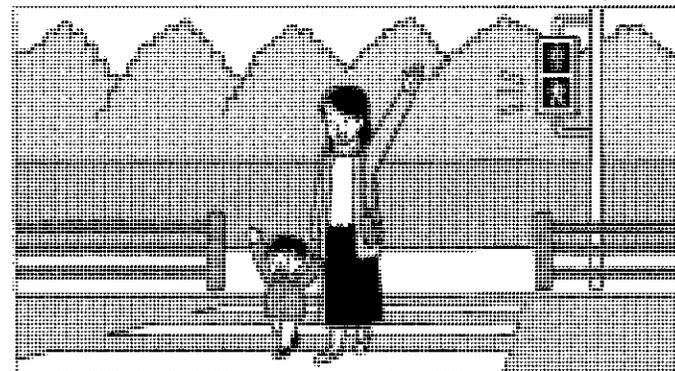
あるく ときは おうちの おとなの
ひとと てをつなぐ。



ほどうを あるく。ほどうの ない
みちでは はしに よって あるく。



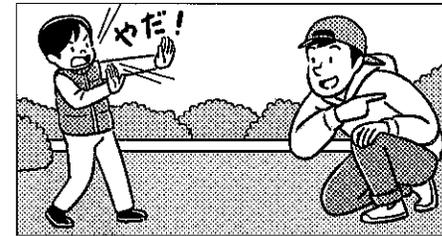
まがりかどでは てまえで とまり
あんぜんを かくにんして すすむ。



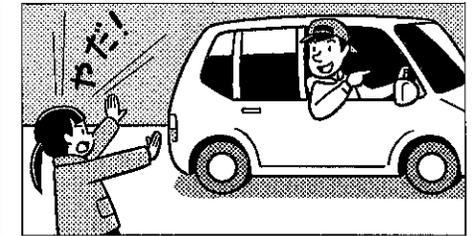
おうだんほどうは あおしんごうで
てを たかく あげて わたる。

保護者の方へ 繰り返しお伝えしていることですが、安全な生活を送るための基本は、道を歩く時の約束を身につけ、しっかり守ることです。子どもたちに言葉で伝えるだけでなく、保護者の皆様が実践し、手本となる姿を見せましょう。また、小学生になると、子どもだけで行動する機会が増えます。「いかのおすし」の合い言葉など、いざというときに身を守るための方法も伝えておきましょう。

いちねんせいに なる まえに 「いかのおすし」を おぼえよう



しらない ひとには
ついて いかない。



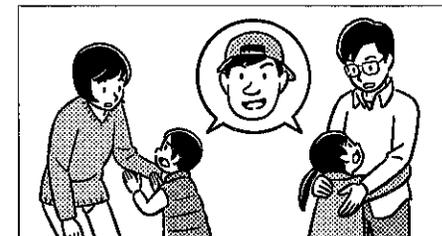
しらない ひとの
くるまに のらない。



おおきな こえで
たすけを よぶ。



こわい ときには
すぐに にげる。



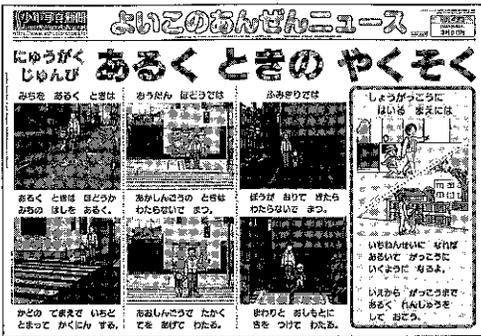
しょうがくせいに なる
とこどもだけで かける
ことが おおく なるよ。

いえの ひとや がっこうの
せんせいに しらせる。

しっかりと きを つけて
あんぜんに すごそうね。

今月の掲示用ニュース 指導例

ねらい 一年を振り返り、正しい道の歩き方をおさらいする



路の端を歩くよ。また、ほかの道にぶつかったら、必ず一度止まって、車や自転車などが来ていないかを確認してね。

【中央左のイラストを縦に示しながら】信号のある横断歩道では、赤信号で絶対に渡らないよ。青になったら手を高く挙げて、周り確かめながら渡るよ。

【中央右のイラストを縦に示しながら】踏切は、音が鳴って棒が下りてきたら、渡らないよ。電車が行って棒が上がったら、足元に気をつけながら渡るよ。

展開例

道の歩き方をおさらいしてみよう。

【左のイラストを縦に示しながら】道を歩くときは、歩道か、白い線で区切られた道

【右枠内を縦に示しながら】小学生になったら、歩いて学校に行くよ。家から学校までの道を安全に歩けるように、練習しよう。

急ぐよりも立ち止まることを身につけさせて

～飛び出し事故が多い子どもたち～

年長の幼児は、4月から小学校に上がると同時に、保護者が付き添わない、「一人歩きデビュー」となりますね。

警察庁が令和元（2019）年から令和5（2023）年の5年間に起きた交通事故について分析したところ、歩行中の小学生の死者・重傷者は2011人に上ることがわかりました。このうちの小学1年生は472人（うち死者10人）なのに対し、小学6年生は162人（うち死者0人）で、小学1年生の方が約2.9倍も高くなっています。また、歩行中の小学1年生の死者・重傷者は6月に最も多く、約3割が「飛び出し」が原因であることもわかっています。進級、進学を前にしたこの時期に、道の歩き方についておさらいしておくことの大切さがわかると思います。

まず、身につけておきたいのは、「止まること」です。横断歩道などを渡るときに信号が赤に変わりそうでも、子どもをせかさず、一度止まって次の青信号まで渡らないことを行動で示し、それに子どもが倣うことが、命を守ることにつながります。見通しの悪い曲がり角から道に出るときも、一度止まって車や自転車などが来ていないかを確認させます。そして、走らないことも大切です。止まって確認したときに見落としがあっても、急いで走り出さなければ、命を守ることにつながる可能性が高くなります。

保護者が子どもの手を引いて歩く機会が減るのも、あと少し。子どもの目線に立ち、歩行者の基本ルールを、手を引いてしっかりと身につけさせたいものです。

参考 「小学校1年生の歩行中の死者・重傷者は6年生の約2.9倍。新1年生を交通事故から守るには？」政府広報オンラインWebサイトほか